

教科(科目)	国語（言語文化）	単位数	2単位	学年(コース)	1学年全学科
使用教科書	三省堂『新言語文化』				
副教材等	担当教員の配布するプリント				

1 学習目標

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1)生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。
- (2)論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。
- (3)言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

2 指導の重点

基礎的・基本的事項の定着のために、

- ①様々な文章を読んで、音読したり、語句を調べたり、漢字を覚えたり、文の意味を考えたり、登場人物の心情を読み取ったり、自分の思いを作文に書き表したり、他者に言葉で伝え合ったりします。
- ②国語の基礎力をつけるため、語句（漢字や語句の意味）などの小テストを随時行います。

3 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにしている。	・「書くこと」、「読むこと」の各領域において、論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにしている。	・言葉を通じて積極的に他者や社会に関わったり、思いや考えを広げたり深めたりしながら、言葉がもつ価値への認識を深めようとしているとともに、進んで読書に親しみ、言葉を効果的に使おうとしている。

4 評価規準と評価方法

評価は次の観点から行います。			
	知識・技能 a	思考・判断・表現 b	主体的に学習に取り組む態度 c
評価の観点	・生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにしている。	・「書くこと」、「読むこと」の各領域において、論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにしている。	・言葉を通じて積極的に他者や社会に関わったり、思いや考えを広げたり深めたりしながら、言葉がもつ価値への認識を深めようとしているとともに、進んで読書に親しみ、言葉を効果的に使おうとしている。
評価方法	以上の観点を踏まえ、 ・授業の態度や、課題や発表などへの取り組みの観察 ・ノート、レポートやワークシート、提出物などの内容の確認 ・定期検査や小テスト などから評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・授業の態度や、課題や発表などへの取り組みの観察 ・ノート、レポートやワークシート、提出物などの内容の確認 ・定期検査や小テスト などから評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・授業の態度や、課題や発表などへの取り組みの観察 ・ノート、レポートやワークシート、提出物などの内容の確認 ・定期検査や小テスト などから評価します。

5 学習計画

月	単元名	授業時数 と領域	教材名	学習活動(指導内容)	評価の観 点	評価方法
4 ・ 5	入門 ・ 言葉を旅する	2 「B 読 むこと」	小川洋子 「千年の時 が与えてく れる安堵」 「言葉の響 き」	・文章を踏まえ、これまでの古典 の学習を振り返り、気づいたこと や考えたことをまとめ、高校での 古典学習への意識付けを図る。 ・「言葉の響き」を音読し、歴史的 仮名遣いにふれる。	a a	授業の取り組み ノート・ワークシート テスト 提出物
	1 読書は生き る力	3 「B 読 むこと」	清少納言 『枕草子』 「春はあけ ぼの」 「ありがた きもの」	・本文を音読し、歴史的仮名遣い に慣れる。 ・作品の内容を自分と関連づけ ながら、ものの見方、感じ方、考 え方を深める。 *広がる読書:作家と読む「枕草子」	c b	授業の取り組み ノート・ワークシート テスト 提出物
		2 「B 読 むこと」	故事二編 「虎の威を 借る」 「朝三暮 四」	・音読し、漢文のリズムに慣れ る。 ・故事成語のもとになった話を 読むことを通して、日本語と漢文 の関わりについて考える。	a c	授業の取り組み ノート・ワークシート テスト 提出物
	春を切り抜く	2 「A 書 くこと」	フォトレポ ートに表す	・作品を読み、音読したり書き写 したりする。 ・構成や描写を工夫しながら、フ ォトレポートを作る。	a b	授業の取り組み ノート・ワークシート テスト 提出物
	中間考査				a、b	
5 ・ 6	2 物語は無限 ・ に展開する	5 「B 読 むこと」	沙石集 「児の飴食 ひたること」	・歴史的仮名遣いについて理解 し、話のおもしろさを読み取る。 ・用言について、基本的な文法事 項を知る。 ・古語辞典を引く。	b a	授業の取り組み ノート・ワークシート テスト 提出物
		4 「B 読 むこと」	説苑 景公之馬	・繰り返し読み、漢文に慣れる。 ・漢文の構造や訓読法の理解を 深める。	a c	授業の取り組み ノート・ワークシート テスト 提出物
	期末考査				a、b	
7	夏を切り抜く	2 「A 書 くこと」	短歌・俳句 に表す	・作品を読んで、書き写したり、 音読したりする。 ・表現を工夫し、短歌や俳句を作 る。	a c	授業の取り組み ノート・ワークシート テスト 提出物
8 ・ 9	2 物語は無限 ・ に展開する	10 「B 読 むこと」	芥川龍之介 「羅生門」	・場面の推移や比喻表現に注意 しながら、主人公の心理の移り変 わりを捉える。 ・追いつめられた状況の中での 人間の考え方や心の動きについ て考える。	a b	授業の取り組み ノート・ワークシート テスト 提出物

9	3 言葉は時空 をかけめぐる	5 「B 読 むこと」	伊勢物語 芥川	<ul style="list-style-type: none"> ・音読を繰り返し、古文のリズムや表現を味わう。 ・歌物語に描かれている場面や登場人物についての的確に捉える。 ・用言や助動詞について、基本的文法事項を確認する。 	a	授業の取り組み ノート・ワークシート テスト 提出物
					b	
	中間考査				a、b	
10	4 人の心は万 華鏡	6 「B 読 むこと」	十八史略 鶏口牛後 先従隗始	<ul style="list-style-type: none"> ・漢文の構造や訓読法の理解を深める。 ・作品に表れているものの見方や考え方を捉え、内容を解釈する。 	a	授業の取り組み ノート・ワークシート テスト 提出物
					b	
10 ・ 11		5 「B 読 むこと」	宮下奈都 「オムライ ス」	<ul style="list-style-type: none"> ・小説の展開を押さえ、主人公の変化と成長を読み取る。 *広がる読書「アマガエル」 	b	授業の取り組み ノート・ワークシート テスト 提出物
	秋を切り抜く	2 「A 書 くこと」	詩に表す	<ul style="list-style-type: none"> ・作品を読んで、書き写したり、音読したりする。 ・効果的に伝わる語句や表現技法を用いながら、詩を作る。 	a	授業の取り組み ノート・ワークシート テスト 提出物
					b	
	3 言葉は時空 をかけめぐる	6 「B 読 むこと」	伊勢物語 筒井筒	<ul style="list-style-type: none"> ・歌物語に描かれている場面や登場人物についての的確に捉える。 ・用言や助動詞について、基本的文法事項を確認する。 	b a	授業の取り組み ノート・ワークシート テスト 提出物
	期末考査				a、b	
12	冬を切り抜く	2 「A 書 くこと」	随筆を書く	<ul style="list-style-type: none"> ・文体や構成、語句などを吟味し、読み手に与える効果を考えながら随筆に表現する。 	c	授業の取り組み ノート・ワークシート テスト 提出物
12 ・ 1	5 共感海を 越える	5 「B 読 むこと」	漢詩四編	<ul style="list-style-type: none"> ・漢詩のきまりを理解する。 ・漢詩によまれた心情を、時代や作者の背景をふまえて読み取る。 	a b	授業の取り組み ノート・ワークシート テスト 提出物
					4 「B 読 むこと」	
1 ・ 2	6 文学は主張 する	3 「B 読 むこと」	徒然草 神無月のこ ろ	<ul style="list-style-type: none"> ・叙述を基に作者の考えを読み取る。 	b	授業の取り組み ノート・ワークシート テスト 提出物
	学年末考査				a、b	

2 ・ 3	6 文学は主張 する	2 「読むこ と」	論語八章	・論語を学ぶことによって、自己 のものの見方・考え方を豊かにす る。	c	授業の取り組み ノート・ワークシート テスト 提出物
-------------	---------------	-----------------	------	--	---	-------------------------------------

計 70 時間 (50 分授業)

※ 領域ごとの授業時数合計

領域ごとの 授業時数合計	A「書くこと」 8 時間	B「読むこと」の古典に関 する指導 41 時間	C「読むこと」の近代以降 の文章に関する指導 21 時間
-----------------	-----------------	-------------------------------	------------------------------------

※ 増単している場合は、増単した割合に応じた授業時数を確保すること。

6 課題・提出物等

- ・月2回程度、漢字小テストを行います。副教材が範囲となりますが、詳しい範囲は別に連絡します。提出あり。
- ・単元ごとに、学習プリントや課題、振り返りの時間を設定しています。
- ・長期休業中は課題と課題テストがあります。

7 担当者からの一言

- ・とにかく1時間1時間の授業の取り組みが大切です。着実に力をつけられるように、理解の難しいところは、その授業で解決できるように取り組みましょう。
- ・受け身ではなく、自ら読んだり考えたり発したりするようにしましょう。
- ・時間に応じて作文等を書いたり、発表したりします。自由にのびのびと自分の思いを表現しましょう。

(担当：)